

## C-II-46 敗血症性 ARDS に対して血液浄化療法を施行した2症例

東海大学医学部付属八王子病院・血液浄化センター

藤井誠二

### 【はじめに】

一般に敗血症性ショックとは、感染によって引き起こされた高サイトカイン血症が引き金となり、ARDSなどの臓器不全を発症するといわれている。今回、ARDSに対する新たな治療方法とされているPMX-DHPとPMMA-SHFを施行することで、重度の敗血症性ARDSを改善し得たので報告する。

### 【症例1】

82歳男性。発熱を主訴に近医で加療を受けるも改善せず、咳と食欲不振が続き当院に精査目的で入院となった。重症肺炎と診断され、内科的治療を行っていたが、第8病日に急激な血圧低下と呼吸障害に至り、ICUに転棟となった。血圧60mmHg、CRP17.2mg/dl、P/F比62、肺野は広範囲に透過性の亢進像を呈したため、敗血症性ARDSと診断された。ICU入室と同時に、PMX-DHPおよびPMMA-SHFを開始し、第12病日まで14時間のPMMA-SHFを連日施行した。CRP0.9mg/dlと優位に低下傾向を示し、P/F比の上昇、あきらかな循環動態の改善が得られた。また、肺野の改善に加え、尿量も増加傾向となり血液浄化から離脱した。

### 【症例2】

49歳男性。10日間にわたり頭痛が続き、近医を受診したが改善せず、救急車にて当院に搬送となった。入院時CRP27.7mg/dlと高値であり、

MRI画像で頸部硬膜外膿瘍と診断され抗生素治療が開始された。第2病日に突然の意識障害と急激な呼吸障害に至り、ICUに転棟となった。血圧70mmHg、P/F比51、肺野は広範囲に透過性の亢進像を呈していたため、敗血症性ARDSと診断された。第2、第3病日にPMX-DHPおよびPMMA-SHFを施行したこと、血圧は上昇しカテコラミンをテーパリングすることができた。さらに第4病日から第15病日まで10時間のPMMA-SHFを連日施行することで、CRP値、P/F比および肺野の改善が得られ、第16病日に抜管となった。その後、間欠的にHDを施行したが離脱でき、第74病日に軽快退院となった。

### 【まとめ】

2症例においてPMX-DHPを施行したこと、有意な血圧の上昇がみられた。さらに、PMMA膜を用いたことで炎症反応が低下傾向を示した。

### 【考察】

PMX-DHP/PMMA-SHFを使用した血液浄化療法により、炎症性サイトカインが除去されることで、血管透過性亢進、P/F比および循環動態の改善が得られると示唆された。

### 【結語】

敗血症性ARDSに対して、PMX-DHPとPMMA-SHFを用いた血液浄化療法は有効であった。